

## 県立大学設立準備委員会（第1回）議事録

1 日 時：平成24年(2012年)5月7日(月)午前10時15分から12時07分まで

2 場 所：長野県庁 本館棟 特別会議室

3 出席者

委 員：和田恭良委員長、阿保順子委員、井出亜夫委員、上條宏之委員、  
神田道子委員、北城恪太郎委員、小宮山淳委員、徳永保委員、中嶋嶺雄委員、  
中嶋聞多委員、中村胤夫委員、山浦愛幸委員、山沢清人委員

オブザーバー：長野市副市長 黒田和彦

事務局：総務部長 岩崎弘、  
総務部情報公開・私学課県立大学設立準備室長 増田隆志 ほか

4 議事録

(事務局)

それではただ今から第1回県立大学設立準備委員会を開催いたします。私はしばらくの間進行を務めさせていただきます長野県総務部県立大学設立準備室の塩原と申します。よろしくお願いいたします。本日は三神万里子委員が都合により欠席となっております。それでは最初に、長野県知事阿部守一よりご挨拶を申し上げます。

(阿部知事)

皆さんおはようございます。長野県知事の阿部守一でございます。県立大学の設立準備委員会第1回目ということで、一言ご挨拶を申し上げたいと思います。まず、各委員の皆様におかれましては大変お忙しい中、この設立準備委員会にご出席いただきましたこと、まずは心から御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。この県立大学の設立に向けた検討経過等について後程説明があるかと思いますが、今長野県短期大学を運営している訳でございます。しかしながら時代の変化の中に立って、今ある短期大学をどうしていくかということのをこれまで検討してまいりました。平成22年の2月、長野県短期大学の将来構想に関する検討委員会という検討の場を設けてご審議、ご議論をいただいていた訳であります。そうした中で今年の7月に、検討委員会から長野県の高高等教育を一層充実する為に、県短期大学を新たな公立4年制大学に転換することが必要だという報告書をいただいた所あります。私としてはこの報告書の内容をしっかりと受け止めて、この短期大学を県立の4年制の大学に発展改組させていきたいと考えております。報告書の中でも、目指すべき大学像、一定の方向性が示されている所あります。1つはグローバル社会に対応し、地域の発展の為にリーダーとして貢献できる人材の育成、そして長野県産業の振興に貢献すると共に、広く県民に開かれた大学、さらには県内外から優秀な学生を集めることができる特色と魅力を備えた大学、こうした大きな方向性が掲げられている訳であります。ただ、詳細な内容、制度設計についてはまだこれからという状況でございます。この設立準備委員会においては、新しい大学の骨格となります基本構想、皆様方のお

知恵をお借りして是非とりまとめてまいりたいと考えております。私としては、1 つは今の環境において少子化が進んでいる中で、よほど特色ある大学を作らなければいけない。魅力のある、個性的な大学を作っていかなければいけないという思いと、そして私ども長野県は昔から教育県と言われております。今学力の面であるとか、あるいは体力の面、必ずしも胸を張って教育県だとなかなか言いづらい状況もある訳ですけども、是非この4年制大学の設置を契機に再びこの信州長野県を教育県であると名実ともにしていきたいと考えております。是非皆様方の幅広いご見識を頂戴する中で、大学の基本構想を取りまとめていきたいと思っております。今日も顧問の皆様にもご参画をいただいておりますが、内部の検討委員会とそれから今日ご参画いただいております顧問の方からも、この新しい大学の在り方について前段でご意見等もいただいておりますので、そうしたこともベースにし更に議論を深めていただければありがたいと思っております。どうか皆様方の力で素晴らしい魅力のある長野県の県立大学ができますことを期待して、そして皆様方のご指導を心からお願いを申し上げて私の挨拶といたします。よろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。本日は初めての委員会でございますので、恐縮ではございますが委員及びオブザーバーの皆様から簡単な自己紹介をお願いしたいと存じます。それではお手元の名簿の順ということで、和田委員よりお願いいたします。

(和田委員長)

長野県副知事の和田恭良でございます。平成22年度、23年度に行いました長野県短期大学の将来構想に関する検討委員会に引き続きまして委員を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(阿保委員)

長野県看護大学の阿保と申します。私も前回の検討委員会から引き続き参加させていただきます。よろしくお願いいたします。

(井出委員)

日本大学大学院グローバル・ビジネス研究科の井出でございます。元々経済産業省の前身の通産省におりまして、30年ほどおりまして、その後慶応大学と現在日本大学におります。実務界とアカデミズムを結び付けたいというのが私の願いでございます。是非何らかの形でご協力させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(上條委員)

長野県短大の上條でございます。4大にするその前に短大を重視する期間が続きまして、その充実のために今までやってまいりました。ようやく四大への移行が検討される段階に入りましたので、学長13年目であまり利口な人はやらない仕事をしています。どうぞよろしくお願いいたします。

(神田委員)

東洋大学名誉教授の神田道子でございます。昨年6月まで独立行政法人国立女性教育会館の理事長を務めさせていただいて、現在は客員研究員でございます。特にずっと生涯学習ということで女性の学習の問題をやってきましたので、その観点からお役に立てればと考えております。

(北城委員)

国際基督教大学理事長並びに日本アイ・ビー・エム最高顧問を務めております北城と申します。私は以前東京の経済同友会の代表幹事を務めておりまして、教育委員会の委員長も務めておりました。現在更に文部科学省の中央教育審議会の委員として、大学改革の委員会にも参加しております。新しい大学を作るのは非常に大事なことだと思ひ委員会に参加させていただいています。

(小宮山委員)

小宮山でございます。以前信州大学の方におりまして、現在は主に中等教育に関わっております。皆さんよろしく申し上げます。

(徳永委員)

国立教育政策研究所の徳永と申します。私は2年前まで文部科学省の高等教育局長のほか、また北九州市に出向していた経験もあり、よろしく申し上げます。

(中嶋嶺雄委員)

秋田県に2004年に新しく作りました国際教養大学の理事長兼学長を務めております。私は信州松本の出身でございますので、是非この大学が立派ないい大学になるように、よろしく申し上げます。

(中嶋間多委員)

法政大学大学院の中嶋と申します。以前信州大学におりました。大学をとりまく環境は、知事のお話にもございましたけれども、大変厳しい状況でございますので、是非新しいコンセプトについて、皆さんと活発な議論しながら、よい大学ができるよう頑張りたいと思ひますので、よろしく申し上げます。

(中村委員)

元三越社長の中村と申します。私も長野県の出身ということで、現在信州経済戦略会議やマーケティングのお手伝いをさせていただいています。やはり教育県長野県と言われながら名前だけになってしまったと、教育をこれから変えていかなければということで以前からこの教育に関しては大変危機感を持っていましたので、頑張りたいと思ひます。よろしく申し上げます。

(山浦委員)

八十二銀行の頭取をしております山浦でございます。長野県経営者協会の会長をやっておりますので、経済界の声ということでメンバーになっていると理解をしております。いずれにしましても、産業界から言いますと、この頃入社する人達は大学を卒業してもなかなかすぐには力を発揮できないというのが私の実感でありますので、是非そういう人を育てられる様な大学ができればいいなと思っております。よろしく申し上げます。

(山沢委員)

信州大学の山沢でございます。ちょっとこの席に出ますと被告の立場もあるのかなと、多くの方から長野県の教育はなっていない、それからただ今山浦会長さんから若いものは駄目だという話でそういう責任を日々重く感じております。信州大学といたしましては、地域貢献これを非常に大きく考えておりまして、信州知の森プロジェクトという様なプロジェクトを作りまして、私どもが持っています専門的な知識および

情熱を長野県に大きくしていきたいと考えております。そういう観点の1つとして、本日県立大学の教育準備の委員会として、委員として検討をきちっとさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(黒田委員)

オブザーバーでございます。長野市副市長の黒田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。私は3月までこの県庁で企画部長としてこの県立大学の設立の担当をさせていただきました。今度は立場を変えて参加させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。なお本日は岩崎総務部長、それから事務局であります県立大学設立準備室の室長の増田他職員が出席をさせていただいておりますのでご了承をお願いします。続きまして本日お手元に配布させていただきました資料の確認をさせていただきたいと思っております。まず本委員会の委嘱状でございます。本来であれば知事からお1人ずつお渡しすべき所でございますけれども、時間の都合上、机上配布とさせていただいております。なにとぞご了承の程お願いいたします。次に本日の会議資料のご確認をお願いいたします。まず会議次第それから委員名簿、それから設立準備委員会の設置要綱、続きまして資料1 県立大学設立準備委員会について、それから資料2 県立大学基本構想の構成(イメージ)、それから資料3 こちら検討スケジュールの案となっております。それからA3の資料が2枚ほどございます。資料4 長野県短期大学の将来構想に関する検討委員会報告書【概要】、それからもう1つが資料5 新4年制大学のイメージ、その下に資料6 としまして参考データをおつけしてございます。それから別冊といたしまして、長野県短期大学の将来構想に関する検討委員会報告書、それから長野県の大学教育に関するアンケート(調査結果概要)、それともう1点県立大学検討会議における課題の整理、以上3冊を別冊でおつけしております。不足する資料がありましたらお手を挙げていただければと思っております。よろしいでしょうか。それでは次に、本委員会につきまして公開での開催とさせていただき、委員の皆様方の発言内容につきましては後日議事録にいたしまして、長野県のホームページに掲載をさせていただきたいと存じますので、ご了承をお願いいたします。次に本委員会の委員長でございます。お手元の委員会設置要綱にございますとおり、和田副知事があたることとさせていただいております。ご了承をお願いしたいと思います。それでは、以後の進行につきましては和田委員長よりお願いしたいと存じます。

(和田委員長)

それではただ今紹介いただきました和田ですが、委員長を務めさせていただきたいと思っております。議論が円滑に進みますよう、皆様のご協力をお願いしたいと思います。さっそく議事の方に入りたいと思っておりますが、次第の3にございます県立大学基本構想の策定につきまして阿部知事と意見交換をしていただくということが本日の主なねらいであろうかと思っております。これに先立ちまして既に皆様に資料等はお配りしてありますが、内容等若干修正した部分もございますので、その辺につきましてまず事務局の方で説明をお願いしたいと思います。皆様お忙しい中お集まりいただいておりますので、簡潔に説明をお願いします。

(事務局)

県立大学設立準備室長の増田でございます。よろしく申し上げます。それでは若干資料が多くて恐縮ですが、まず資料1をお願いします。県立大学設立準備委員会についてでございますが、申し上げるまでもなくこの委員会、先程も知事の挨拶にもございましたように、4年制大学の設立に向けて基本構想の策定など新たな大学設置に向けた検討をお願いするものでございますが、2に位置づけとございますが、これまでの経緯について若干ご説明をしたいと思います。事前より長野県の県立短大をどうするか、長野県の高次教育をどうするかという議論がございまして、21年頃から県としても検討してまいったのですが、平成22年の2月に長野県短期大学の将来構想に関する検討委員会を設置いたしまして、15名の委員の皆様、変更もあり17名の委員の皆様にご検討いただいております。阿保委員、上條委員、小宮山委員、それから和田委員、和田副知事も当時の委員としてご参加いただいた訳なのですが、平成23年7月27日にその報告書がまとめられました。別添にございます報告書でございますが、後ほど簡単に説明をさせていただきたいと思いますが、1~6の項目についての報告がございましたが6といたしまして新たな公立4年制大学の設置、長野県の高次教育を一層充実するためには長野県の短期大学を改組して新たな公立4年制大学に転換することが必要だという報告をいただいた所でございます。これを受けまして昨年整理すべき課題等について検討を続けてまいっている所でございます。中段に書いてございますが、県立大学検討会議、これは庁内の当時の企画部長をトップといたしました関係部局の会議でございますが、運営体制の検討等を続けてきてございます。それからこの検討会議の顧問という形で、4名の方にお入りいただいて目指すべき大学像についてご意見を頂戴してきております。先程知事のあいさつにあったことでございますが、北城委員、中嶋嶺雄委員、中嶋聞多委員、山浦委員の4名もこの委員会にも入っていただいておりますが、この4名の方にご意見を伺ってまいってきております。こういった状況を踏まえまして、具体的な大学設置に向けて基本構想の策定をお願いするというのが現状の経緯でございます。この1番最後に基本構想の策定とございますその後に印が2つついていますが、1つには併せて福祉大学校、これは保育士の養成をやっておりまして、その関係もございまして福祉大学校の在り方、それともう1つ長野県が運営しております看護大学の運営体制についても、この新しくできる4年制大学の設立との関係においてその体制についてご検討をお願いしたいと思っております。それから基本構想策定になろうかと思えますけれども、教育課程の編成、教員選考方針など具体的な調査検討をお願いしてまいりたいと思っております。検討時期でございますが、これはこの委員会でご検討いただいくことでございますが、開学まで色々な点でご指導を賜りたいと思っております。なお、要綱上の任期、それからお手元のお願いいたしました委嘱状の任期は区切りのいい所で年度末までとなっておりますが、場合によりましたら専門委員会、専門部会なども設置しながら開学まで是非ご指導賜りたいとお願いする所でございます。

引き続きまして資料2でございます。県立大学基本構想の構成(イメージ)でございますけれども、今申しました平成23年7月の報告書、新たな公立4年制大学の設置

のあとにめざすべき大学像として、1～9の項目について報告をいただいております。こういったことを踏まえまして、より具体化する形で基本構想を策定していくのかと事務局としてはイメージを持っております。大学設置の趣旨、大学の理念等の項目、項目立ては表現の仕方は色々あると思うのですが、このような内容のものを盛り込んでいったらどうかと考えている所でございます。またご意見を頂戴し、ご指導をいただきながら案という形で次回以降たたき台、さらには案という形で進めてまいりたいと思います。

資料3をお願いいたします。今後の検討スケジュールの案でございます。設立準備委員会、本日が第1回5月7日でございます。なお急きょ日程の変更をお願いいたしまして大変ご迷惑をお掛けしましたこととお詫びいたします。どうもすみませんでした。また今日集まっていただきましてありがとうございます。本日5月7日第1回でございます。この後資料でご説明させていただきますイメージというものを提示しながらご議論をいただきまして、6月以降たたき台あるいは素案という形で提示できるものから順次具体化してまいりたいと思っております。第2回の6月には理念、学部・学科、教育の特色などをたたき台といった形になりますか、案や素案の一つ手前位のものをお出ししてご議論を頂戴してまいりたいと思っております。もちろん十分なお議論やご検討をいただくというのが大前提でございますので、この回数等もあくまで現在の案でございますが、概ねご議論を十分にいただくという前提といたしましてこの位の日程、9月中あるいは月をまたぐ位になるかもしれませんが構想案を決定して、11月位には構想決定ということを経済的には考えている所でございます。大変タイトな日程で恐縮ではございますが、よろしくご指導をいただければと思っております。それから関連として福祉大・看護大との関係というのがございます。先程申しましたように新大学を設立するにあたって、学部・学科の構成ですとかあるいは運営体制の面でこの2つとの関係が出てまいりますので、それも合わせてご検討いただき、それから構想が決定されると前後して看護大の運営体制についてもこの会議において、例えば新しい4大が法人化するとした場合に、看護大はどうするのかといったようなこともあろうかと思っておりますが、そういったことを必要に応じてご検討をいただきたいと思っております。それから教育課程、教員選考方針につきましては12月に専門部会第1回とございますが、その辺りから専門部会を必要に応じて設置させていただき、集中的にご議論を頂戴できればと思っております。よろしくお願いいたします。

それから資料4でございます。長野県短期大学の将来構想に関する検討委員会の報告書、平成23年の7月23日に報告書をいただいたものの概要でございます。別冊として本物をつけてございますが、委員として加わっていただいた皆様もいらっしゃる所ではございますが、簡単に説明をさせていただきます。1番、背景といたしまして上半分を踏まえて5番以降の結論が出たということになります。背景ですが、全国の高等教育を取り巻く環境、申し上げるまでもなく大学の進学率が50%を超える中、少子化もあって入学者数はほぼ横ばいになっている。公立大学が増加する一方、公立短大はピーク時の1/3まで減少しており、今後学生の確保は非常に厳しいという全体的な認識がございます。それから長野県といたしましても、先程教育県長野という話もございましたが、例えば大学の進学率というものは平成22年で43.7%、全国29位

なのですけども、これは大学の収容率、18歳人口に占める定員の割合でいうと全国平均が50%を超える50.9%位なのに対して、長野県の場合は15%そこそこということとで全国でも最低水準にあるということ。それから短大の方は、進学率は全国の中では一番高く、収容率も全国の上位にはあるという状況はございますが、こういった結果といたしましてアンケートにもございますように、県外大学への進学希望者が73%。実態として県外に出ている子どもの数ということになりますと83%~4%が県外に出ているという状況がございます。そういったことも踏まえまして、ニーズ(必要性)というものがあるのだろうということになりました。そして長野県の高等教育において県が果たすべき役割として、高等教育を受ける機会を充実させることが必要だということ、それから地域を担う人材、地域の課題を地域で解決する人材を育成することが必要だということ。それから県内外から優秀な学生を集めるということも重要だということ。それから県として地域振興の活性化に高等教育が貢献する様なものにしていかなければいけないということ。それから高等教育全体を振興しなければいけないという、長野県の高等教育について県が果たすべき役割についての検討・確認がなされた所であります。また県立短期大学の状況ですが、志願状況・就職状況とも概ね良好ではありますが、県内においても短大の進学率が年々低下している状況もあり、また栄養教諭や中学校教諭2種といった資格は取得できるのですが、就職に活かすことが困難になっているという状況も踏まえて、今後学生や社会のニーズに応えていくには困難なことがあるのではないかとというお話でございました。こういったことを踏まえまして、5番下へまいります。長野県の高等教育をより一層充実するため、長野県短期大学を改組し、新たな公立4年制大学に転換することが必要であるという報告をいただいた所でございます。4年制大学を設置するにあたっての目指すべき大学像としても報告をいただいております。行いました県民等へのアンケート、あるいはこの社会的状況等を踏まえての目指すべき大学像として、(1)基本的な考え方でございますが、グローバル社会に対応できる知識・技能を身につける。それから地域課題の解決に積極的に関わって、地域の発展のためにリーダーとして貢献できる人材を育成すべきだということ。それから大学自体が長野県の知的拠点として、長野県産業の振興に貢献するとともに、生涯学習機能を充実するなど広く県民に開かれた大学を目指すべきということ。それから県内外から優秀な学生を集めることができる特色と魅力を備えた大学となることが望まれるという基本的な考え方が示された所です。さらにそれぞれの(2)人材育成の分野でございますけれども、これは地域政策の観点から地域の課題解決のための企画立案、あるいは自然環境、伝統文化などを活かした地域づくりに主体的に関わる人材を育成する必要がある。それから産業の活性化とか持続的な発展のために世界を視野に入れた企業経営や経営課題の解決、そういうことに必要な専門知識を身につけた人材の育成が必要であるという2点を指摘をされました。なお具体的な学部・学科については県内の高校生、それから企業のニーズ、大学に設置されている学部の状況等から検討していく必要があるという指摘もされています。それから教育内容の特色でございますが、専門的な知識や技術の習得に加えまして、実行力、協調性、コミュニケーション能力など企業組織や地域社会の中で仕事をしていく為の基礎力というものを育成する。それから主体的に進路を選択していく為のキ

キャリア教育というものを重視するということ。それからグローバル社会に対応するための外国語をツールとして使いこなす能力の養成、それから留学生交流の推進といったこと。それから公立大学の特色としまして実社会に活かしていくためのフィールドワークを重視した教育、あるいは伝統や文化などの研究を通じて郷土愛をはぐくむ教育といったものも重要だという指摘をいただいている所です。それから(4)以降、地域貢献活動でございますが、これも公立大学の重要な役割として研究の成果を地域に還元する為のシンクタンクとしての役割を果たしていくことが重要だということ。それから生涯学習機能の提供等で県民を対象とした科目等履修制度やリカレント教育等地域に開かれた大学をめざす。それから県内大学との連携を充実して、長野県の高等教育をさらに成果をあげていくことが望まれること。それから(7)のその他、設置場所につきましても、学生や教員確保の観点、県内高等教育機関の設置状況、既存施設の有効活用、県の財政状況等を踏まえて判断すべきだということ。それから大学の規模につきましても県の財政状況あるいは運営体制につきましても教育・研究活動等の充実、財政的な観点などを考慮して決めるべきだという報告をいただいた所でございます。以上資料4までの説明でございます。

資料5は飛ばしていただきまして、資料6の参考データでございます。今の報告をまとめるに当たって行いました県民アンケートの主なものを紹介をさせていただきます。2ページ、長野県で今後育成が必要とされる人材としては、企業からは創造力、実践力を備えたリーダーとなる人材、それが第1位の希望でございます。県民からは地域の課題解決に貢献できる人材これが第1位でございます。第2位はそれぞれ企業は高度な専門的知識や技術を身に付けた人材、県民の方はこの点の丸がついている位置がずれてしまって恐縮なのですが、これからの福祉社会を担う人材というものが県民からの第2位だった訳であります。それから公立大学に期待する役割といたしましては、企業・県民とも順番こそ違え上位はこの3つ、県内企業に優秀な人材を供給すること、地域の活性化に貢献すること、低廉な学費で大学教育を提供することでございます。それから3ページにまいりまして、公立大学の設置を希望する理由といたしましては、高校生・企業・県民それぞれに聞きました所、高校生・県民からは高校生の進学の実選択肢が増える、経済的負担が少なく済む、これが1位2位でございます。企業からは地域のニーズにあった人材を地域で育成できること、それから大学卒業後に県内へ就職する人が増えること、これが上位に該当する所が多かった所でございます。4ページでございます。新たな公立4年制大学に設置を希望する学部についてもアンケートを行ったところですが、高校生からは経済・経営・商学が1番、企業からは工学、県民からは社会福祉学が1番でございます。経済・経営・商学につきましても、いずれも5位以内には入っているという状況でございます。それから資料6ページ以降、学部・学科の分野別学生数という統計がございます。長野県は先程申しましたように18歳人口に対する大学の定員数が圧倒的に少ない訳なのですが、この網掛けしてある所は全国平均よりも学部・学科の学生の割合が少ないものでございます。7ページ以降県内の大学の状況等を示してございます。別冊資料の1番最後に、県立大学検討会議における課題の整理という冊子がございます。これが内部的に県庁内部で課題整理をしてきたものでございます。23年度3月のまとめでございます。要



点のみ申し上げますと、運営体制につきましては、公立大学法人とすることが望ましいのではないかと一定の整理をしている所であります。それから看護大学との関係については、法人化を進めて更に検討していこうということでございます。人材育成分野、幼児教育の分野でございますが、県が保育士、幼稚園教諭を育成する必要性でございますが、要は今まで県短・福祉大学校が担ってきた社会的な支援、評価を踏まえると県が養成する必要性は高いと。それから専門性を高めていく上では3年制では困難だということ。それから福祉大学校、ここでは幼稚園の教諭免許が取得できないのでこれとの関係を考えていく必要があるといったようなことであります。それから3ページの人材育成分野（栄養）ですが、栄養士につきましては資格による就職割合が低下していること、それから県内私立短大の栄養士養成課程が定員未充足であるという要因もあり、必要性について必ずしも高くないということも考えられているということ。それから管理栄養士につきましては、就職先の問題、それから先行して設置している松本大学との競合などの課題があるという整理を内部的にしてきた所でございます。以降につきましては、説明は省略させていただきます。

以上のことを踏まえまして、資料5をお開きいただきたいと思います。この資料5で方向性と書いてございますのは、将来構想検討委員会からの報告あるいは庁内整理、それから顧問の皆様からいただいたご意見を踏まえまして、県としての方向性としても将来構想検討委員会の報告の方向性としても一定の方向性が出ているものを提示いたしました。それから主な顧問意見は、4名の皆様からご意見を頂戴したものを、ある意味もっとも広げた形、拡張した形でそのままできるだけ整理をしたところであり、それと課題につきましては、顧問の皆さんからの意見ご指摘をいただいたものに対して、事務局でこういった課題があるのではないかと書いたものであります。基本理念の方向性でございますが、これは先程から言ってきたことと同様です。教育全体の水準向上・充実を図り教育県長野の復活。あるいはグローバル社会、地域課題、生涯学習といった基本理念。主な顧問の皆様からの意見としてはいわば信州を世界に開くといったことではないか。あるいは新たな価値の創造ということではないか。実践知の追及で教育・研究・実践のトライアングルを作っていくことではないかといったお話。それから学校の特徴でございますが、1つにはグローバルな人材を育成しようということ、それと同時に地域課題を解決する実践も重要視しよう、ですから両方を両立させるという意味で、グローバルとローカルの両立あるいはグローバルな人材育成が必要だという意味で顧問の皆様からもお話をいただいております。グローバル人材の育成については、徹底した英語教育、全教科英語による授業、国際教養大学で行われているような授業、あるいは日本語の授業も場合によっては必要というご意見。あるいは留学の義務化1年あるいはワンセメスター。それから留学生の積極的な受入れ。それから英語が話せる里親を育成したらどうかというご意見。それから第二外国語も重要だというお話。それから人間の基礎づくりとしての教養を重視するというお話。それからこういったことを踏まえて1年間の全寮制というのを取り入れたらどうかというご意見をいただいております。課題として考えられますのは、グローバル人材育成に高度に特化していった場合に、県内比率というものをどのように考えるのかという問題。それから当然ながら英語による授業を行う場合の教員確保

の困難性。あるいは留学義務化に伴う経費や学生の費用負担といったものが考えられるということで、課題に示してございます。地域課題を解決する実践の欄でございますが、地域、企業、行政と連携した実践的な課題探求型の授業を取り入れるべきだというお話。地域でプロジェクトを実践するだとか、コミュニティビジネスなど起業を実践するだとか、あるいは地域実践を卒論にしてそのまま認定するとか、それから今度は拠点をつくるべきとすることのご意見、地域に貢献する専門的な知と実践の拠点でございますが、産学官連携センターを作って企業や行政からも研究員を派遣して、それから企業や行政から受託によるインバウンド観光とか、海外提携等を企画・実践する、そういった所でシンクタンク機能や実践教育の場として活用していったらどうかというご指摘。当然ながらそれに対しては、企業、行政機関からの協力が必要だということでございます。あるいは大学院の設置とか専門研究員の配置といったものが必要になってくるというところはございます。それから長野県全体が学びの場、顧問の皆様からはサテライトを設置する、それから県内大学と連携をする、それから地域人材を講師に活用するというお話をいただいております。それから学生・社会人共学、これは開かれた大学といってもいいかもしれませんが、企業の人材教育や県民の生涯教育をこの大学が機能として持つということのご指摘をいただいております。企業の研修と大学教育の連携、それから生涯を通じた資格教育プログラム、少し表現が正確ではないかもしれませんが、大学で学び、また企業に入って企業で学び、あるいは1回企業から出て再び大学に戻って学ぶといったことを一体として、社会的に評価される様なプログラムというものを開発して定着できないかといったようなお話も頂戴しております。それから県民が高等教育を受ける機会を確保すべきというお話。一定の県民比率を確保するというのを考えるべきと、20%の県民枠とあとは一般入試、あるいは50%程度を目標にすべきではないかというお話。その中で高大連携というものが大変重要だというご指摘をいただいている所であります。それから学部・学科につきましては社会科学系ということで、方向性としては地域課題の解決やグローバル社会における企業経営に関する分野、幼児教育は引き続き実施についての方向性がある訳ですが、顧問の皆様からはビジネス経営系と公共経営系の2本立てでと、専門分野は自分の適性とか将来を見据えるという時間をもった上で教養履修後に選択する様な制度にしたらどうかというお話。それからさらに専門職大学院を設置して、6年の一貫教育にしたらどうかというお話。それから幼児教育はスペシャリストを養成するという観点から看護大学に親和性があるのではないかとのご指摘をいただいている所あります。専門職大学院には需要等が見極めが必要ですし、幼教等についても福祉大との関連を含めて詰めていく必要があるということ。場所については、方向性は将来構想検討委員会の方向性をそのままここに記載してございますが、顧問の皆様からは世界に誇れる場所と施設という志を持つべきだというお話をいただいております。段階的整備ですとかファンドの創設ということが検討課題かと思っております。それから運営体制でございますが、学長がリーダーシップを発揮できるような体制で行くべきだというお話をいただいている所でございます。県庁内の検討会議では法人化が望ましいのではないかとご整理をしている所でございます。以上いずれも雑駁ではございますが、現時点での経過とそれから顧問の皆様からいただいたことを中心とした新

4年制大学のイメージについてご説明させていただきました。よろしく申し上げます。  
(和田委員長)

ありがとうございました。それではただ今の説明を踏まえまして、皆様から新しい県立大学の基本理念や、先程知事が申し上げました特色ある大学として何を目指すべきかということについて、皆様から忌憚のないご意見を頂戴したいと思います。これにつきましては特に資料の中で最後に説明のありました資料の5ですが、新4年制大学のイメージという形で書いてありますが、これはかなりこれまでの検討の中でいただいた意見を集約してあるものかと思えます。またここにあります項目につきましては、今後基本構想を策定する上で具体的に詰めなければいけない項目ですので、この資料5を中心に皆さんからご意見をいただけたら大変ありがたいと思っております。今回初めてでございますので、全員の皆様からご意見を頂戴できたらと思っておりますが、いかがでしょうか。最初ですので一通り皆様からご意見をいただくことも可能でございますが、その方がよろしいですか。ではさっそくお願いして申し訳ありませんが、阿保さんの方からご意見いただいております。

(阿保委員)

今までの将来構想検討委員会からのイメージというものが生きているのかと思うのですが、1つだけおおよその方向性というのはこういう形で検討していけるのだろうなと思えますが、1つだけ気になりますのは、外国語の資料の4で外国語をツールとして使いこなす能力の養成や留学生交流の推進ということがございますが、ツールというのは要するに徹底した語学教育というのは、要するに日本語ってというのは日本の考え方というものを日本の論理性みたいなものを言葉にのせていく1つのツールなのかもしれません。外国語による教育が必要だということは、要はいわゆるグローバルな人材というものを育てるためには、外国の人々の考え方に乗っ取った、例えば英語圏の人達の考え方というものを言葉にのせた時に英語というものを学習するということになるのだらうと思えます。ですからツールなのかもしれませんが、何かこれだと非常にいわゆる語学教育が必要だというのはやっぱり外国人が何を考えて、英語圏の人達が考えて、何をどのように考えて物事をまとめていくのかということを知っていく、そのために外国語というものが必要なものであって、そこら辺がこの書き方ですとちょっとだけ違うように受け止められるかなという気がいたしますので、あくまでも語学教育というのはそういう意味では日本語がきちんとできて日本語ができる、外国語の外国の人達の考え方が分かってそれを学ぶことができる、それが英語教育なんだよという所の基本を押さえておかなければいけないなという様なことが1点でございます。それから資料の5の方にまいりますと、やっぱりこの地域課題を解決する実践という所で、地域貢献ということは非常に重要になってきていまして、ここの実践的な課題追求型の授業として、例えばインターンシップの様なものをやられた方がいいのかなということが1つと、それからサテライトキャンパスの設置、こういうことはいわゆる新大学とそれから看護大学でもそういうことを5か年計画の中でも入れてありますので、そのように長野県全体が学びの場というようなことからすればそういったサテライトキャンパスというものを、いわゆる県の両方の大学が同時に使える様な、そんなキャンパスがあればいいかなと思いました。それからもう1つは幼児教育はス

ペシャリスト養成の観点から看護大学に親和性があると書かれてございまして、これについては多分ここで考えられている幼児教育というのは、いわゆる幼保一体化という流れの中でやはり最近増えております自閉症スペクトラムいわゆる発達障害の問題だとか、それから身体障害者だとかそういう子ども達の教育っていうのはなかなか一般の教育を受けただけではうまくいかないということがございますので、そういう意味では看護大学のノウハウっていうものがあれば信用性は高いのかもしれないといえるかと思えます。以上でございます。

(和田委員長)

ありがとうございました。井出さんお願いします。

(井出委員)

今回の構想を大変印象深く受け取りました。日本経済社会全体が非常に大きなパラダイムシフトの中にありますが、そういう中で長野県が教育分野において新しい道を切拓く決意をされたことに敬意を表したいと思います。グローバル化の進展はもう逆転できない必然の状況だと思えますけれども、信州の先達佐久間象山は、幕末・明治維新前に、開国、まさに当時のグローバル化を唱えた人でありますから、その路線を貫いていただきたい。知の世界に言及しますと、島崎藤村でありますとか、あるいは岩波茂雄等の輝かしい伝統がございます。また、長野師範学校あるいは信濃教育会という流れもございます。新大学は、こうした流れに立脚した新しい展開を図っていただければ幸いです。ご説明の中にありました検討委員会がまとめられた内容は、おおむね妥当と思えますが、以下何点かについて申し上げます。

一つは県立大学でございますから地域ニーズを踏まえることは当然でございますが、一方、グローバル、特に成長著しいアジアというものを視野に入れたものであって欲しい。決して県内にとどまったものではなくて、日本全国、世界に開かれた大学を目指していただきたい。アメリカの州立大学には、世界に発信をする著名な大学が沢山ありますので参考になると思えます。

専門教育の重視、専門知識涵養の重要性はその通りでございますが、同時にリベラルアーツというものを大事にしていきたい。今日の多様な国際経済社会を念頭に置きますと、人間の相互依存関係、共生の概念、歴史意識の大切さを痛感いたします。また企業や組織の原理・社会的責任も非常に大きいものがあります。そのあたりは、カリキュラム編成過程で是非工夫をしていただければ幸いです。

それから大学全体あるいは日本社会全体を見渡しまして、文科系と理科系があまりにも早い段階で分かれていまして、その結果文理融合の発想が乏しい。これを是非融合・一体化する様々な試みができないだろうかと考えます。また、それに伴う弊害として学問が細分化されますので、一方で学際研究の必要、あるいはインターディシプリーな発想と戦略が必要と言われるけれども、実際は大変それに乏しい。新県立大学は、こうした日本の宿弊に果敢に挑戦していただきたいと思えます。

語学教育の重視は是非やっていただきたいと思えます。英語は当然であります、特に近隣国である中国語あるいはハングルなども必要ではないかと考えます。世界の成長センターはアジアに起きておりまして、この傾向はますます強くなってくると思えます。この地域に隣接する日本は、欧米にない有利なポジションにあります。日本

の近代化における成功と失敗の経験を相互に共有することが、世界史における日本の役割ではないかと思えます。

一方、今後の少子高齢化社会を考えますと、医療、福祉の分野が非常に重要であります。県立大学の実現の過程の中で具体的にお考えをいただきたいと思えます。

それからあと2点、サテライトを考えるということではありますが、その際には情報通信（IT）技術を駆使した遠隔地教育システムと、なかなか実態は制約もあるようでありますけれども、一体的に考える必要があるかと思えます。それからたまたま、高知工科大学の先生のお話を伺い、また、福井県立大学の事例等を拝見すると学務と事務といいますか、アカデミー部門と事務部門の連携・協力が極めて重要であることを痛感いたしました。以上でございます。

（和田委員長）

ありがとうございました。それでは上條委員。

（上條委員）

今回の県立大学設立は、長野県短期大学の4大化がベースになっている訳でありますので、現在の短期大学にどのように磨きをかけるかという所に力点を置いて今まで私達はこの問題に取り組んできました。長野県短期大学は戦前の「女専」からスタートしたのでありまして、戦前の長野県の唯一の女子高等教育機関としての歴史がある訳で、今年83年目を迎え、それなりの研究・教育あるいは社会的蓄積があります。この蓄積は、もちろんカリキュラムなどにもありますが、本日のデータに掲げられている新しい県立大学のイメージの中に示されているいくつかの課題をも踏まえた蓄積にもなっています。今や短期大学は時代のニーズに合わなくなってきていますけれども、しかし総合型の短期大学、少人数教育という特徴を中心に掲げながら、現在私達が自負しているのは、日本における短期大学としてかなりレベルの高い教育・研究をしているということです。そういう基盤は是非新県立大学でも踏まえていただきたいと思っています。基盤をそのままと言うより、新しい時代に合ったものに高めて、新県立大学に活かしていくべきだろうと考えます。

井出委員の方からも出ましたグローバル社会にどう対応するかについて言いますと、語学教育のことが大きく出てきている訳ではありますが、例えばこの中にある英語による面接とかは英語英米文化専攻で既にやっておりますし、さらにはアメリカの州立大学との連携も年を重ねています。それから中国の方では、河北大学や中国国際放送局との連携を行い、先頃も中国から2人の客員研究員が来ましたが、6月にはもう1人河北大学から客員研究員が来ることになっています。そういうアジアに向けた視点も非常に私は大事だろうと思えます。もちろん英語教育も、単に英米圏との連携だけではなくて東南アジア等との連携も非常に重要な役割を果たさだろうと認識しています。

次に、今回提出された全体のイメージの中で私は1つ気になる所は、いわゆる教養教育と専門教育との連携をどのようにカリキュラムの中に体系づけるのかということです。キャリア教育が非常に重要だということはいうまでもない訳ですけれども、キャリア教育を学部・学科構想にどう反映させていくのかというのは、今回のイメージに示されているものばかりでなく、かなり議論の余地があるのではないかと私は考えております。その中で第一のポイントは何かと言いますと、やはり県立大学ですから

学部・学科構想が県政課題とどう切り結んでいるかというところが問われる訳であります。その観点から、県民・企業・高校生等のアンケート結果を絶えず意識しながら、新しい県立大学を作っていく必要があると考えます。それが魅力ある大学の条件でなくてはならないということ、さらには専門職大学院も含めた一貫教育にしていく際の性格付けに大変大事だろうと思います。

もう1つは語学教育の問題に付け加えて置きますと、私達が今まで海外から客員研究員等を迎えたりした経験を通して、もちろん英語の重要性は感じていますが、片方では日本語教育が不可欠で、留学生を迎える場合には日本語教育を是非位置付けておかないといけないのではないかと考えております。

最後に、短期大学を現在運営している立場からお願いしなくてはならないことで、私達短期大学当事者が心配しておりますことは、少なくとも平成27年4月に県立大学開学を是非実現していただきたいということです。3年後に開学されないと、今私達が長野短大をそれなりのブランドとして維持させるよう頑張っ、色々工夫しながら、どのようにスムーズに県立大学に移行させるかという問題に取り組んでいますが、これが限界にくるのではないかと心配しています。27年開学に向けて、文部科学省、設置審に申請する場合に施設・設備をどのように整えて発足させるかは、緊急かつ大変大きなテーマでして、それにはまず、大学の規模をどうするか、設置場所をどこにするかを早急に決めていただくことが必要です。県立大学の特徴は、それ程大きな規模の大学ではないけれども、教員と学生、学生相互のコミュニケーションが非常に大事な要素になっていることでして、それをきちっと継続していくことが不可欠です。それともう1つ、資料では言及されていませんが、大学運営の面で言いますと学務情報システムが非常に大事だと思います。学務情報システムを整えることによって、大学運営が初めてスムーズにいくのではないかと私は考えております。また、大学は教員と学生だけではなく、地域、同窓生、いろんな学生や大学を取り巻く人達の関わりの中で成り立っている1つ生活体だと思いますので、その辺の所を充分踏まえて、新しい生活感のある、魅力ある大学にしていただきたいと思います。

(和田委員長)

ありがとうございます。続きまして神田委員お願いします。

(神田委員)

今日のご報告を聞きまして、検討委員会の報告書は大変よくできているなという印象を持ちました。その上でやはりこれは県立大学でありまして、国立大学ではないということをしかりと踏まえる必要があると思います。そしてまずはここにあります人材育成でございますが、これは正確に言うと社会的人材育成でございます。これはこの大学の1つの核になっていくテーマであると考えております。ところでその人材育成と申しましても、その中身ですけどここにあります様に、私はやはり長野県の地域課題の解決、それから地域の振興ということはきちんと踏まえる必要があるだろうと考えております。その上でじゃあもう少し考えてみますと、今までの社会人材というのはどちらかという社会の既に出上がった枠組みとか何かの中で、いかに能力を発揮していくか、こういうのが人材の捉え方だと思いますが、今はこれだけ社会が大きく変化してまた災害などのことで、新しい社会を作っていく必要が出てきていま

す。そう考えた時に、これからの社会的人材の育成は社会づくりの参加する、いわば参画型人材の育成だろうとこう考えております。そこには大きく違いがあって、それがまた教育の違いにも跳ね返ってくるのだらうと思います。

そこでこの参画型人材の育成を考えた時に、私は長いこと女性の問題に関わって来たのですが、今1番これから必要とされるのは女性の人材でございます。もったいないのですね、女性は活用が十分できていないということは。そういう点では参画するという時にも、女性は生活の根底から色々なことを考える視点を持っておりまして、新しい見方ができるという点で私はやはり特に女性の参画型人材の育成というところは力を入れる必要があると思います。同時にこの人材を大学教育を出た所だけでいたい測っていて、就職率がどうだとかいっておりますけれども、どんなに教育をしても3年かそこらでやめてしまうというのでは人材としての有効性はない。ですから卒業生がどれだけ地域で活動をするか、あるいは県を作っているか、そういう長期的な視点に立った人材の育成というのが必要であろうと。その点で生涯学習が結びつくんだと。今の生涯学習は大学でもやっていますし色々な所でやっていますから、単に生涯学習という言い方ではなくてどういう中身を持った生涯学習なのかしっかりと方向性を固めた上でたてるべきです。確かに教養も必要ですけども単なる教養じゃないとそう考えております。女性の人材育成という観点から、さっき教育県の問題がでてきましたけれど、先程の検討委員会の報告書の中で大学進学率43.7%、それから短大進学率9.6%でこれを足すと53.3%になる。つまりこの女性が大学の方へ進学すると53.3%という進学率になる。その点では今回のこの大学がこの短大に行っている女性たちをどんどん吸収する様な中身を持っていることが絶対に必要だと思えます。一般的に教育県という言い方をしますけど、進学率は一つの指標になります。進学率を上げる余裕があるのが女性です。進学率がまだ低いですから。そこで女性をどのようにして県立大学に組み込んでいくかが重要です。それから教育内容についてですけども、目標を地域の人材については、地域の新しい課題の解決を現実に行い、地域を振興していく人材という様に捉え、そこから教育内容や方法を考えていく必要があります。そこでは実践性が基本になります。どれだけ課題解決に資することができるか実践という点から内容を組んでいく必要があるかと思えます。実践性という点から考えると各大学との連携はもちろん必要ですけども、例えば経営団体との連携だとか、あるいは社会教育機関との連携とか大学だけではなくて共通に関わる所との連携がなしには実践性は達成できません。これを1つ特徴としてやるべきだと考えています。その時に国際化という問題は出てきますけれども、これからは国際化は不可欠ですが、単なる国際化ではなく、この大学の特徴を踏まえての国際化であり、地域の課題を解決し、地域を振興する人材の育成としての国際化だと思っております。そういう点では、留学生を呼んでくるのもいいことだと思いますが、実践性・課題解決に、国際的な状況の中で、実際に課題解決にどうあたっているのかということ踏まえた国際化が必要です。その点では留学生をこちらに来ていただくだけではなくて、この大学で実習として色々な国に行く、その時にやはり実践性という観点から色々な所に行くという様な方向が必要だと思えます。

最後に、それでは社会人材を育成していくことについてですが、これはある意味で

言えば今平面図があって、この人材をどんどん育成しなければならない。育成する時に若い学生はもちろんですけども、多分今後はその人材というのは高齢者も入って来るだろうと考えています。これが生涯学習機関としての大学の役割と結びつきます。そして内容として核になるのがキャリア教育だと私は考えております。現在のキャリア教育は職業キャリアにあまりにも寄りすぎております。キャリアというのは社会的役割と社会的位置の軌跡でございますので、社会活動をやっている人達もこれもキャリアです。私は職業キャリアと社会活動キャリアをともにキャリアとして捉え、相互に関係するものとして現在複合キャリアという考え方をしています。そういう観点からのキャリア教育、そして重要なのは個人と社会をどう結び付けていくかという観点です。現在はあまりにもキャリア教育が個人的にすぎる。むしろ社会と個人を結び付けて、社会の発展と個人の生涯発達を結び付けるような特徴あるキャリア教育をやっていくことによって、人材育成教育という教育の特徴ができあがるのではないかと考えている所でございます。

(和田委員長)

北城委員お願いします。

(北城委員)

まず社会のグローバル化と新しいことに挑戦するイノベーションが必要だという流れは変わらないと思います。それを踏まえた上で、特色ある大学・県立大学を作るべきとすると、私は長野県の発展に貢献できる、少なくとも地域の発展に貢献できるイノベーションの担い手を育てるべきで、新しいことに挑戦をする人を育てることが必要だと思います。そこにおいて地域との連携をするというのを1つの特徴にしたらいいいと思います。ですからこの大学を出て外国で、あるいは東京で活躍する人材よりも地域社会で活躍する人材、それも新しいことに挑戦する人材を育てるというのを1つの特徴にしたらいいいと思います。

それから英語教育に関して言えば、英語で自分の意見を表現できる、英語でビジネスができる、英語で交渉ができる、会議で発言ができるような学生を育てるべきだと思います。日本の英語教育は、ビジネスの場で使うことのできる英語を教えていないと思うのです。そういう意味ではビジネスを英語でできる、長野のものを外で売る時に交渉ができるという、そういう英語教育であるべきだと思います。

それから3番目は一定比率の県民を確保するということは大変結構なことだと思います。まず県立高校があるので高大の接続を考えるべきで、日本の大学教育の問題の1つは入学試験が高校の勉強をゆがめてしまうということなので、基本的にはまず入学試験のない大学を作られたらいいと思うのです。アメリカの有力大学で入学試験のある大学はないと思うのです。高校でしっかり勉強してきて、意欲があって色々なことに挑戦できる学生をきちっと調べて大学入学を認めているので、長野県立大学の特色としては入学試験のない大学を作られたら面白いのではないかと。その代わり、優秀な学生をどう集めるかというのはかなり努力しなければいけないと思います。

それから予算の規模があるので、あれもこれもはできないと思います。理工学部と一緒に併設するのは非常に大変なことだと思います。私は国際基督大学の理事長をしていますが、この大学は物理とか化学とか理系も持っていますけれども、相当大きな



大学の規模にしない限り理系と共存はできないと思うので、どれだけの予算を確保してこの大学を運営していくかということを考えながら検討すべきだと思います。

それから施設については、海外から留学生を集めるにしても世界に誇れる場所だとか施設がない限り学生は来ないと思います。なので大学に誇りを持てる様な施設を作るべきだと思いますし、その為にはどれ位の予算を確保するのかということ考えながら検討すべきだと思います。

終わりに日本の大学の運営の問題の1つは学長に権限がないということで、秋田の国際教養大学の中嶋先生の所は別ですけども、新しく大学を作った時は学長に権限を与えるべきで、学長がリーダーシップを持って運営できる体制を作るべきです。それが無い限りいくら色々なことを考えても教授会で反対されてものが進まないということでは、優れた教育はできないと思います。この学長のリーダーシップを発揮できるようなガバナンス体制を作ることが大事だと思います。以上です。

(和田委員長)

ありがとうございました。小宮山委員お願いします。

(小宮山委員)

私自身は前の検討委員会に加わらせていただきましたが、その時の結論ですか、要点を資料の5にまとめていただいたということでありがたいと思います。ここに盛り込まれております様に、先程から話が出ていますがグローバル人材の育成、グローバル化というのは、一時的・ブーム的なものではなくてこれはもう不変である。そういう意味ではこれが核になって進んでいくということは絶対かと思っています。その時に国際教養大学さんなども参考にさせていただきながら発言させていただいた訳ですが、是非こういう方向に進んでいただきたい。その時に、個性のない大学になってしまっただけでは困るということで、この辺は本当に気を引き締めて取り組んでいかなければいけないし、個性輝くレベルの高いそういう大学を目指していただきたいということを重ねてお願いしたいと思います。それから実はちょっとお手を煩わせることになってしまいかもしれませんが、やはりこの時期に、少子化に向かうこの時期に大学を新設するという事なので、本当にフリーな立場で幅広く多角的に検討するということが絶対に必要なと思うのです。それで私自身の検討委員会の時の反省なのですが、財政的な制約というのはどうしても頭の中に取り込んで、今も北城先生からもお話しがありました様にいわゆる理系というのは考えませんでした。ところがアンケートからみた高校生の切なる願いは、県内に留まる学生が少ない訳ですが、長野県に今ない学部とか学科を、もし大学を新設するならば是非作ってほしいということでした。そういう意味で理系というのを絡めると、1度は検討していかなければならないかなと思うのは、薬学教育なのですね。最近、統合医療ということで、薬学関係の裾野がどんどん広がってきています。それから長野県は健康長寿であり、健康長寿であると薬はいらんよということではないでしょうし、そういう背景もあることから、やはり我々がここに盛り込まれた様な1つの結論に至る場合に、こういう観点からも検討しておく必要があるのかなと。私自身はこれ以上のデータもございませんし、その辺参考データをお示ししていただいてこの委員会としても、これが方向性を決める最後になると思うので、是非1度この件についても検討していただけたらありがたいなと希望ござい

ます。以上でございます。

(和田委員長)

ありがとうございます。徳永委員お願いします。

(徳永委員)

私風邪をひいてしまって声が出なくて恐縮なのですが、最近経済同友会の代表幹事の方の講演を聞いていますとやはり私自身も今大学経営とか教育の中でグローバルゼーション、イノベーション、ダイバーシティこの3つをいかに実現していくのが鍵だと思っております。グローバルゼーションということに関しては、私自身が昨年企業の役員の方を何十人かインタビュー調査をしまして、またその研究所の方でグローバル人材育成のための大学評価指標という調査報告書も取りまとめておりますけれど、その際もちろん英語による教育ということも大事でございますが、一方では論理的な思考力、あるいは論理的な表現力を支えるという力をまず育成をする。そのためにはまず日本語のレベルにおいても、どうそういう形できちっと論理的にもの考えられるか、あるいはきちんと表記するのかということを考えなければいけないと思っております。現に小宮山先生が信州大学の学長の時に始められました信州大学の共通教育課程では、ノートの取り方から教えているという訳でございますが、日本の大手の企業に入ってらっしゃる学生さんの、一部東京の大学等から入社した学生さんの会社の役員の方に聞きましたら、1時間の会議の議事録をとるのに全く議事録がとれないか、1時間かからなければ読めないような議事録しか作れないという様なことをおっしゃってまして、そういう所をやっぱりきちっと教育をしていかなければいけないんだと思っております。また同時に、やはりその産学との対話と連携による教育というのが大変大事だと思っておりますので、その意味では今日は八十二銀行の方もお見えでございますので、是非地場の産業の方と大学が一体となって人づくりをする、そういう仕組みを作っていく必要があるのだなと思っております。

また同時にそのイノベーションということに関して言いますと、これは先程阿部知事の方からも教育県長野の復活というお話があった訳でございますが、やはり現在の教育というものの問題を見ていますと、相変わらず黒板と教科書と一斉授業という昔風の教育をやっている訳で、教育方法自体のイノベーションをどう進めていくのかということが重要だと思っておりますので、是非その長野県の教育技術、教育方法自体のイノベーションの為の実験の場としてこの新しい県立大学が新しい授業・教育を展開していただければと思っております。現在多くの私立大学等では双方向の授業等も進んでおりますし、あるいは学生の主体的な自己交流を促進する仕組みがございます。あるいはアクティブラーニングという形で教員の方の技術もかなり向上しておりますので、是非そういう新しい大学の特色とすれば、教育の技術・方法・授業形態、こういうこと自体において工夫を講じていただければと思っております。

また特にダイバーシティということに関して申しますと、やはり学生の構成それから教員の構成、職員構成の方についても様々なバックグラウンドを持った方がいるということが必要でございますが、もちろん学生さんの多くは長野県内から入ってきて、そして長野県内に就職をするということを考えましても、この新しい長野県立大学それ自体がいわばグローバル化を体現した様なキャンパスということを目指していくべ

きだろうと思っております。

またさらにもう1点、私はリーマンショックの頃担当局長をしておりましたので、やはり最近の学生さんは就職難にあえいでいる。実際に私立大学の文科系の学生さんは4人に1人が就職できないという様な状況を考えまして、その中でももちろん様々な雇用状況の問題はありますが、学生さん自身が職業ということをおもひ考へたことがない。ベネッセの調査によりますと、その3分の1位の学生が大学1年生になっても何も将来のことを考へていないという調査もありますので、是非学生さん自身が自分がどう生きていくのか、そしてその為はどう自己向上を図っていくのか、そういうことを促す様な教育をしていく必要があると思っております。特に最近、多くの私立大学等では学生さんにポートフォリオを書かせたり、自分がどういう様な進歩状況にあるのかということをおマッピングで分らせる様なことなど様々な工夫をしていますので、そういう学生さん自身に対して主体性を高める様なそういう教育をしていくことが必要だと思っております。以上でございます。

(和田委員長)

ありがとうございました。続きまして中嶋委員お願いします。

(中嶋嶺雄委員)

色々国際教養大学のことを話していただいて大変光栄なのですが、現在公立大学は81大学あるのですが、最近秋田でも公立美術短期大学が4年制の芸術大学を目指しています。仮に長野県立大学というのができた時に、その中でどういう特色があつて、どういう魅力があつて、どういう大学なのかというものを打ち出さないと、県立大学はたくさんありますよね。岡山県立大学とかあるのですが、それはどういう県立大学かというイメージがわからないと思うのです。大学の名前をどうつけるかということも非常に大事だと思います。グローバルと地域(ローカル)は、座標軸が根本的に違いますから、どちらかの座標をきちんとさせないと、なかなか個性がはっきりしないのではないかと思います。そこで今日のこれに、これまで皆さんが検討されてきた大変貴重な御意見と思ひますけど、長野県短期大学を改組し新たな4年制大学に転換する、これが1番の焦点ではないかと思ひます。さつき上條先生がおっしゃった様に、大変伝統もあるし地域に密着した県立短大を改組なのか、新しい大学を作るのかというの、この所もきちんと設定しないとなかなか個性が出ないのではないかと思います。

それから留学生のことですが、留学生を呼ぶということも簡単なことではないのです。例えば授業料がカリフォルニア大で約300万かかりますが、300万円の大学にただで、国際教養大学に払う授業料で留学させます。その為事前に交渉が物凄くタフになり、学長が自らやりまして、そうでないとなかなか留学生が来ないのです。ですから1度また機会があれば細かいことをお話ししてもよいのですが、今アジアで1番レベルが高いのが香港大学です。香港大学がアジアの中でも非常にレベルが高くてかなり入るのが難しい所に、交換留学を設けるためにはかなりの努力が必要です。その結果現在131の大学と提携し、授業料は相互免除、授業料を払わずに行けるのです。こちらからは1人送つて、向こうからは3人受け入れるという様なことをしています。

そうしますとやっぱりここにもありました様に場所ですね。世界に誇れる場所これ

が非常に重要になってくると。元の県立短大を使うか使わないかという問題も、すごく重要な点ではないかと思います。長野県は自然が豊かで、北アルプス山麓とか八ヶ岳のふもととかそういう外国から来た人達が魅力を感じる様な自然がありますので、というのはうちの大学は森に囲まれていまして、水芭蕉が今満開なのです。自然の水芭蕉の文学を、その学生に説明する時水芭蕉を英語でスカンクキャベツといいます、その水芭蕉っていうのがいかに美しいかということ留学生には、ウォーターアナウスと説明しました。その様なことを含めて、やっぱり場所はすごく大事です。留学生も本当に来やすい、ICU なんかもそういう環境にあると思いますが、そういう環境を本当に選ぶのならば、1つの選択肢が整ってくると思います。

うちの大学の場合県内の学生が15~18%、少ないと県議会からしょっちゅうお叱りを受けながら、しかしそれらの人達が県の企業にも随分色々貢献していると思います。問題は、長野県にそういうグローバルな人材を受け入れられるだけの企業がどのように育っていくかというその問題があると思うのです。単にグローバル化といって地域貢献に取りいっても、受け皿が長野県全体が活性化する方向になっていく必要がある。皆さんのご意見は大変貴重だと思います。

(和田委員長)

ありがとうございました。それでは中嶋委員お願いします。

(中嶋間多委員)

私は顧問の中に加えていただいて、これまでも色々発言をさせていただいてこの資料の中に随分盛り込んでいただいていますので、手短にお話しをしたいと思います。これまでの話を聞いていまして、検討委員会のご議論と皆様のお考えも、方向性はほとんど同じではないかなと思っています。ところがグローバルな人材、あるいはローカルな人材とこの両立させるのが非常に難しいのだと思います。ですので、理念としてはそれでいいのですが具体的な各論になった場合に、色々新しいアイデアとかを盛り込んでいかないと実際にはいきこないのではないかと危惧する所でございます。グローバル・ローカルのお話もそうですし、ここに書いてあるのですがリベラルアーツとそれから実践知この両立というのもございますし、それ以外にも色々あるのですが、そういうシステムをどうつくるのかというと日本で成功している大学はないと思うのです。そうしたものを新しく我々が今回考えつつ盛り込んでいかないと、これは題目だけで終わらせる訳にはいかないのだと思います。そういう意味で新しいチャレンジであるということを感じたいと思います。

それからこの中に書かれてある提案の中で、やはりお話はありましたけれども高大連携、それからたぶんその信州長野県の中の大学間の連携という、そういう高等教育間の連携を実体化するとかそういうことも盛り込んでいかないと、1大学だけでやれることではございませんのでその辺の協調性の様なものも考えていくべきだと思います。

あと次かその次位には議論になるのだろうと思うのですが、具体的な学部・学科のことではございますが、ビジネス系と公共系を考えるべきという、これはこれに近い様な社会科学系の提案というのが検討委員会に出ていたと思うのですが、具体的なビジネス経営といいましても、今ある企業に就職する、ビジネスマンを育てるといって

ころからもう一歩すすめて、地域として考えた場合に、イノベーションという起業家を育成する、すなわち長野県で業を起こす人達を育てていくことが大切だと考えます。それから公共経営においても、行政職員にグローバルな知識を磨いていただくとかそういう面もございませうが、やはり新しい公共といいますかそうした人材をこの長野県から育てていくということが必要になるのだらうと思っております。いずれにしてもチャレンジだということ認識しながら取り組んでいかなければいけないんだらうなと思っております。以上です。

(和田委員長)

ありがとうございました。中村委員お願いします。

(中村委員)

今の諸先生方がおっしゃっている中で色々な課題が見えてきておりますので共通することになりますが、新4年制の大学のイメージが大変よくまとまっているなという印象をまず受けました。この県立大学の2年制から4年制にするにあたって、少子化として学生減が本当に大変だなということを、この5年後はどうなるかということシュミレーションした時に、本当にこの大学に来てくれるのかなと。もちろんその為に変えていく訳ですけども、先日も私立大学では有名な大学が閉校する、学校をやめる、そういう学校が私大ではどんどん出てくると思うのです。39%が定員割れだと。その中で県立大学のあり方というのは、本当に圧倒的な魅力というものを付けた上で、個性化を付けた上で作り上げないと学生さんが来てくれないと経営が成り立ちません。そういう意味では魅力ある大学にするにあたって、先程から出ていますけれども上條先生の所でも色々頑張っていたいただいて短大を構築した。その延長線で作った時に、どうしても色々な形の制約を受けてしまうのかなと。ですから新しい大学を作るといってまずベースを作って、その上で考えていくことが必要じゃなかろうかと。要は魅力がなければ来てくれない、それが想像以上に大変なことだということをもう少し実感しなければいけないのかなと。

そして2つ目は私も前から言っているのですが、起業家を作るという様な1つのテーマ。これはビジネス系と公共系ということがありますがけれども、起業家を育成することになりますと色々な形で今学問的に出来上がっていますし、今の文科系、大学の文科系というのは意外に役立たない。これは私も経験してきていますけど、そういう意味では新しい文科系の大学を作るという様な意気込みで変えていかないと魅力ある大学にならないのかな、そして世界で勝負ができるタフネスな人間を作り上げていかなければいけないのかなと。そのためには先程から言っていますがやはり英語でビジネスができる、そういうことがやはり日常茶飯事にできないとこれから競争ができないのかなと思っております。

大変こんなことを言ってたくさん出てきていますけどその中で絞り込んで、あの大学はここがやはり、あそこが強いから、ここがいいから行こうという大学を作り上げないとだめなのかなと。そのためには1つのブランド作りといいたしましうが、ブランドを作るためのベース、作りやすいブランドを作りやすいベースの項目からやはり拾い上げてその中からピックアップしていかないといけないのではなかろうかと、要は今までの文科系は思い切って変える。新しい大学が生まれるのだ。そしてなおかつ長

野県で企業化して、この長野県でまた雇用が生まれ、そして長野県に起用できるそんな大学になればいいなという思いでこの委員会に参加させていただいております。以上でございます。

(和田委員長)

ありがとうございました。山浦委員お願いします。

(山浦委員)

同じような意見で大変申し訳ないのですが、中村委員もおっしゃっているように、なぜ今更 4 年制大学を作るのかという疑問を誰でも持つ訳でございますし、やはりそれにはどうしても先程から出ています様に特色ある大学を作るということにつけるのではないかと。小規模でも光っている大学を作りたいと思う訳でありまして、それにはやっぱり目的をはっきりしないといけないので、あれもこれもやったら必ず虻蜂取らなくなるのではないかと考えておるので、経済人の立場から言いますと、やはり人間力のある、グローバルな人間を育てる大学というのが私の考えであります。今日の朝も県内の上場会社の社長が私を訪ねて来まして、会社でいろいろイノベーション、大きい会社ですからイノベーションというのだけど、をするには、やっぱり長野県で大学を出た人を雇うより、高専等を出たの方が使えるよと。大学に進学しなかったけれども優秀な人が来ている、大学を出た方が必ずしも優秀じゃないと言っているのです。これは事実の話であります。長野県にはいくつかの大学や短大、私立も公立もありまして、定員割れして困っている様な所もあります。県短の場合は今も志願者が多く、多分県立大学を作りますと人数だけは集まると思うのです。定員割れになることは当面ないのではないかと思うのですが、レベルがどうかという話になるのではないかと思います。レベルの高い人が来ていただけるかどうかということがやっぱり大学の魅力、やっている中身と学生と先生の相乗効果が大学の魅力になっていくのではないかという気がしますので、是非その辺をきちんとしていく必要があるのではないかと思います。

産業界から申し上げますと、長野県は製造業がどちらかというとな全国的に多いということで、どういう人が欲しいかという、今は長野県の有効求人倍率が 0.8 位ですが、ミスマッチが結構あります。高等教育を受けた様な技術者は足りない。他の人はみんな余っているという状況でありまして、何故かというとな長野県はセイコーエプソンさんとかああいう大きな企業は別として、ほとんど中小企業の集まりでありまして、そこはどちらかというとなカスタマイズされた工作機械を作るとかラインを作るとか、そういうものの部品を作るとかそういう仕事が多い訳です。たまたま医療機器を作ろうとか開発しようかみたいな話もありますが、今までは電子関連のどちらかというとな大量に作りますみたいなことをやっていて、それはみんなコストの安い外国へ行ってしまったということでありまして。長野県の経済が何を目指していくかといえば、やっぱり少量多品種とかそれから医療だとか研究開発だとか、そういうものを目指していく必要があるのではないかと考えておる訳でありまして、そういうものを作るにはやはりどこもそうなのでしょうけども、熱意だとかやる気だとか基本的な人間力というものが必要ではないかと思っております。あえて言えば自己問題発見解決型の人間といえますか、自分で考えて自分でやってしまうみたいな人を育てる。それともう 1 つはや

っぱりどうしても外国へ物を売っていくということがありますので、コミュニケーションのとれる人、またグローバル語学を含めて、今長野県も多分 700、800 の企業さんが外国に拠点を持っていて、1000 以上の拠点を持っている訳であります。だいたいどのようになっているかという、昔はもう高校を出た人でもいきなり現地へ送っちゃったのですね。言葉も何もできないけれどもやって、そのうち 10 年もいればそれなりに仕事もできると。今はどちらかという、大企業を辞めた人を外国でリクルートして現地の社長に雇うとか、日本で雇った外国人をまた自国へ送るとかやっていますが、そんなことで、中小企業の場合は、自分で育ててきたグローバル人間を送っていくというケースが非常に少ないのです。ということで結局輸入人種みたいな所がありますので、やはりきちんとかういう大学で将来を担っていける様な人材が育ってくるといいなと思っておる訳であります。以上であります。

(和田委員長)

ありがとうございました。山沢委員お願いします。

(山沢委員)

もう皆さんがおっしゃられたこととほとんど変わらないのですが、特におっしゃらなかったことで強調したいのは 2 つございまして、1 つはここにございませけれども 1 年間の全寮制と書いてありますけれども、これは非常によろしいのではないかと。全寮制というのを導入する効果は大きい。多分多くても 250 人位の 1 学年でしょうから、その位の寮を建てればいいのではないかと。今色々そこに留学生も入れるような部屋も作ったりしますと、結構寮費を高く設定しなくてもできるというのがありますので、これは信州大学の 300 名の 1 年生の寮があるのですが、そこを 1 年間だけですけど卒業した学生というのは 4 年間きっちり人間関係を作って、非常によろしい。人間力を養成するという意味では山浦委員がおっしゃられた、そういうことの基本となる様な友達作りというのができますので非常にいいかなと。

あと 2 つめは北城さんがおっしゃった入学試験のない大学というのは、これは作るチャンスだと私も思います。今日は前高等教育局長がいるのでちょっとしゃべりにくいのですが、大学の入試の制度というのは本当にこれでいいのかというのは私ももいつも考えておりまして、やはり大学が目指す人材をきちっと集められるという、そういうことを考えますと入学試験にとらわれずに教員が苦勞して集めてくるということが必要なのではないかなと。県立大学ですから、おっしゃるように皆さん分かっている様に県立高校を下に持っている訳ですから、より深い関係ができるということで多分いい人材が全部取られちゃうかなという気がしないでもないですが。

それからもう 1 つは遅くても 27 年、東京大学が多分その時は秋入学をやっているのではないかなと思うのです。あれは東京大学と他に 11 大学位、大きな大学は入っていますから良い悪いに関係なく東大がやると就職が 1 年目は遅いのですが、その次の年からもう 6 月に先に決まってしまうのです。すると信州大学なんかの場合は、その後からいつでもいい就職なんかあるのかしらとそういうこともあるのですが、もう 1 つは高校は 3 月に卒業して、入学は 9 月にこの 6 カ月をどうするかという。これはある意味では大学にとって非常にいいチャンスだと思うのです。ちょっと予算がかかる点はあるのですが、その点は県という国よりフレキシブルな予算を組めますので、

結局先に学生をとっておいてその6カ月の間に外国に1回行ってしまおうとか色々なやり方があると思うので、そういうこともある程度の中で考えておいたらいいのかなということも思います。

あとは日々苦労しているのですが、大学の経営というのはものすごいお金がかかっているのをどうクリアしていくか。先程どなたかがおっしゃっていましたが、教学スタッフの中で教員と事務方の協力関係というのは絶対に必要でございます、そういうものもある程度新しい大学を作る時のイメージの中に入れていった方が、大学の経営というのもすっきりするのかなと思います。そこがしっかりしていないとガバナンスは発揮できないのです、学長としては。そう実感している所です。

(和田委員長)

ありがとうございました。では黒田さんの方から特にあれば。

(黒田委員)

委員の皆様意見を聴かせていただきまして、全て実現できればもの凄い大学が長野にできるなということで大変期待が大きい訳であります、どれくらいできるかこれから事務局の方でも頭の痛い話だろうと思っております。いずれにいたしましても平成27年になりますと北陸新幹線が敦賀まで順調に行けば開く、そして、長野市は首都圏からも、北陸からも、あるいは新潟からもほぼ等距離、コアというかハブの位置関係になる訳でございます。そういった意味では学生あるいは教員の確保という点では非常に優れたメリットがあるのではないかなと。また車で30分圏内で、先程国際教養大学の中嶋先生がおっしゃった様なすばらしい自然環境、あるいは特色ある山岳地域、あるいは4つの季節ということに直に触れられる訳でありまして、そういった意味では地元としても、そして長野市の副市長という立場ですので大いに期待しながら、また長野市としてもできる限りの協力をさせていただきたいと思っておりますので、是非立派な大学をよろしく願います。

(和田委員長)

大変皆様から貴重な御意見をたくさんいただきましてありがとうございました。一通り回っただけでちょうど時間となりまして、これ以上時間をかけてという訳にはいきませんので最後に知事の方から何かありますでしょうか。

(阿部知事)

大変貴重な御意見を色々いただいて時間が無くなってしまって申し訳ございません。次回以降はもう少し皆さんの御発言の時間を取る様に工夫をしたいと思います。大きな方向性はだいたい一致している部分が多いのではないかなと思いましたが、私どもも具体的に踏み込んで考えていかなければいけない問題をいくつか提起されたら受け止めておりますので、次回もう少し具体的な所に踏み込んで検討いただけるように準備をしていきたいと思っております。今、長野県中期計画の策定の途中であり、これから色々なプロジェクトを考えていかなければいけない部分はありますが、この新しい4年制大学は当面の長野県として取り組むべき最大かつ重要なプロジェクトであるということは間違いないだろうと思っております。私としては皆様方から問題提起された様な方向性を最大限具体化して、本当に教育県長野を復活させたいと思っておりますし、教育県長野の知の拠点として多くの人を引き付けることのできる大学にしていきたいと思っ



ておりますので、今日いただいた意見はもう 1 回整理をさせていただきますし、ちょっと時間が足りなかったものですから皆さんの方でもう少し追加的でこういう意見があるよとか、こういう検討をしるよということがあれば事務局の方にどんどんおっしゃっていただければと思いますので、よろしく願いいたします。大変今日はありがとうございました。

(和田委員長)

ありがとうございました。それでは次回のことについて事務局の方からありますでしょうか。

(事務局)

次回 2 回目の開催日程でございますけれども、すでに事務局からご連絡申し上げておりますが 6 月 20 日(水)午後 3 時から 5 時までということで、場所につきましては県庁内で調整をしておりますので、また追ってご連絡をさせていただきますが、ご予定の確保をお願いしたいと思います。

(和田委員長)

それでは長時間に渡りまして非常に熱心なご議論をいただきまして大変ありがとうございました。以上で閉会いたします。ありがとうございました。